

令和3年度学校経営の成果と課題

～学校評価アンケートの分析から～

山形市立高橋中学校

学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。学校経営の3つの重点に沿って15項目で生徒、保護者の皆さんに自己評価をお願いしました。また、今年度より新たに、教員も同じ項目で自己評価をしました。



以下に、数値化してまとめた結果とその考察をお伝えします。今年度は、保護者の皆さんに学校へ足を運んでいただける機会を残念ながら設けることができませんでしたが、成果と課題をもとに、来年度の教育活動に生かせるように学校経営の改善を図ってまいります。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。



◇評価方法 今年度の学校経営の3つの重点について、それぞれ5項目の質問を設定し、a～bの4段階評価としました。

A：そう思う B：どちらかといえばそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

◇表の見方 ・表内の数値は、%を表しています。

・総合評価は、以下を基準としました。(右の[R2]は昨年度の評価です)

・Aが50%以上はA
 ・Cが20%以上はC
 ・CD合わせて50%以上はD
 ・それ以外はB

・右端の[A+B]はA：そう思う B：どちらかといえばそう思う を合わせた%です

重点1 助け合い高め合う生徒(敬愛の心) → コロナ禍での生徒の頑張りを評価

						総合 R2	A+B		
		A	B	C	D				
敬愛の心	1 生徒達は、学校・地域でのボランティア活動や職場体験などを通して、地域の一員としての自覚を高めることができたと思いますか。	生徒	41.4	49.2	7.8	1.6	B	A	91
		教員	35.3	64.7	0	0	B		100
		保護者	35.9	45.8	16.0	2.3	B	B	82
			A	B	C	D			
	2 生徒達は、学校や家庭、地域での挨拶を進んで行うことができたと思いますか。	生徒	64.8	30.5	3.9	0.8	A	A	95
教員		11.8	76.5	11.8	0	B		88	
保護者		37.4	44.3	16.8	1.5	B	B	82	
		A	B	C	D				
3 生徒達は、教科の学習や総合的な学習の時間等を通して、地域の特徴を理解したり、地域に対する愛着を持ったりすることができたと思いますか。	生徒	33.6	52.3	13.3	0.8	B	B	86	
	教員	29.4	64.7	5.9	0	B		94	
	保護者	32.1	55.0	11.5	1.5	B	B	87	
		A	B	C	D				
4 生徒達は、地域の方の協力を得て(「先輩に学ぶ」や「地域探訪」、「福祉施設訪問」等)、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりすることができたと思いますか。	生徒	46.9	43.0	9.4	0.8	B	A	90	
	教員	52.9	47.1	0	0	A		100	
	保護者	45.8	44.3	9.9	0	B	B	90	
		A	B	C	D				
5 生徒達は、中学生の一員として学校をより良くするために、思いやりの心を大切にしながら行動できたと思いますか。 学校は、保護者や地域の方々の声に耳を傾け、学校をより良くしようとしていると思いますか。	生徒	53.1	42.2	3.9	0.8	A	A	95	
	教員	47.1	52.9	0	0	B		100	
	保護者	48.9	43.5	6.1	1.5	B	B	92	
		A	B	C	D				

項目1 (ボランティア活動・職場体験) について

今年度の生徒会スローガン「繋」の活動の一環であり、生徒会重点目標の一つが「ボランティア」です。今年度も、アルミ缶、ペットボトルキャップの回収活動(毎月始め)と募金活動に力を入れ、特にアルミ缶回収の収益金でリハビリセンターに車椅子1台を寄贈しました。また、地域の方々のご協力があり実施できた全校生による資源回収や、地域の高齢者の方々へ感謝の気持ちを表す1・2年生の「年賀メッセージカード」の取り組みなど、コロナ禍にありながら“地域に感謝し、地域に貢献”できたことが高く評価できます。

項目2（あいさつ）について

生徒会重点目標の中でも、誇りを持って取り組んでいる活動が「あいさつ」です。「あいての目を見て」「いつでも（どこでも）」「さわやかに」「つねに自分から」を合い言葉に、「人と人が繋がる」あいさつを校舎内外で活性化させようと励んでいます。一方で、PTA生活指導部の方々の交通安全指導の反省では、地域の方々へのあいさつが地区によって差があることをご指摘いただいております。これからも生徒主体の取り組みを大切に、「あいさつ」の合い言葉を意識しながら「地域を元気にする高中生」を目指してまいります。

項目3・4（地域理解）について

本校で継続して行っていた「先輩に学ぶ」の講話は、コロナ禍にあり、残念ながら開催できませんでした。しかし、1・2年生の「地域探訪」では、高瀬の2年生が楯山の1年生に、楯山の2年生が高瀬の1年生に、地域の名所旧跡や神社、寺院、文化施設、商店や農場を紹介し地域への理解を深めました。訪問した先々で、丁寧にご対応いただきましたことに感謝申し上げます。「人と話すことの楽しさと共に難しさも学んだ。地区内の知らなかった魅力をみんなで見つけることができた。」という生徒の感想からも充実感が伺えます。また、社会福祉協議会、県立点字図書館、県聴覚障がい情報センター、県リハビリセンターのご協力を得て、3年生を対象に障がい者体験活動を実施しました。視覚障がいの疑似体験、車椅子体験、手話教室などを通して、障がいをもったの方々への理解を深め、自分ができることを考える貴重な体験となりました。「地域を知り、地域に学ぶ」機会を設けることができたのは地域の皆さまのお陰です。今後とも変わらぬご指導をお願いいたします。

項目5（思いやり）について

生徒会を中心に、仲間の良いところや感謝の気持ちを伝え合うことをねらい、「ハートの木」や「思いやり宣言文」の取り組みを通して、互いの個性や特性を認め合うこと、「温かい、優しい、思いやりのある言葉」がけを心がけることを、学校をあげて取り組んだ一年でした。もちろん、その取り組みの出発点は、「悪口や陰口」「からかいや心ない言葉」が散見される状況があったからですが、自分たちの学校を自分たちがより良くするという気概ある行動の表れでもあります。今後も、「自分たちの学校は自分たちが創る」という高校の校風を大切に、思いやりを育む取り組みを生徒と共に継続してまいります。

重点Ⅱ 進んで学ぶ生徒（自主の心） → 本校の継続的課題

						総合	R2	A+B		
		A	B	C	D					
自主の心	6	生徒達は、「授業が楽しい」「もっと勉強したい」と感じながら学習することができたと思いますか。 授業の様子やお子さんの話などから、授業の中で生徒の興味関心を喚起させるような工夫がなされていると思いますか	生徒	25.8	45.3	21.9	7	C	C	71
			教員	29.4	64.7	5.9	0	B		94
			保護者	22.1	61.1	16.8	0	B	C	83
				A	B	C	D			
	7	生徒達は、「わかった」「できた」と達成感を感じながら学習することができたと思いますか。 授業の様子やお子さんの話などから、授業の中で生徒の達成感を大切にした指導が行われていると思いますか。	生徒	45.7	35.4	18.1	0.8	B	B	81
			教員	35.3	58.8	5.9	0	B		94
			保護者	24.4	55.0	19.8	0.8	B	B	79
				A	B	C	D			
	8	生徒達は、仲間と話し合ったり調べたり、まとめたりするなどの関わりを大切にしながら学習することができたと思いますか。 授業の様子やお子さんの話などから、学校は仲間と話し合ったり調べたり、まとめたりするなどの関わりを大切にしていると思いますか。	生徒	48.4	43.7	7.1	0.8	B	A	92
			教員	47.1	52.9	0	0	B		100
			保護者	38.2	55.0	6.1	0.8	B	B	93
				A	B	C	D			
	9	生徒達は、学校からの課題（宿題など）や自分で計画した家庭学習をすることができたと思いますか。	生徒	34.6	42.5	17.3	5.5	B	B	77
			教員	5.9	64.7	29.4	0	C		71
			保護者	38.2	32.8	19.1	9.9	B	B	71
			A	B	C	D				
10	生徒達は、家庭で読書する時間を意識して設けてきたと思いますか。	生徒	33.3	27.0	23.8	15.9	C	D	60	
		教員	0	29.4	58.8	11.8	D		29	
		保護者	17.6	18.3	41.2	22.9	C	D	36	
			A	B	C	D				

項目6（学びへの意欲）・7・8（達成感・学び合い）について

項目6は、生徒の評価がCの項目です。教員一丸となってワクワク感のある授業づくりを目指し授業改善に取り組んでいます。しかし、子どもにとって興味が湧く課題、必要感があり取り組んでみたいと思う課題など、生徒の目線に立った課題づくりには更なる工夫が必要だと捉えています。「どうしてなんだろう」という生徒の疑問を起点に、「調べてみたい、理由を探ってみたい、やってみたい、できるようになりたい」と意欲を高められる授業改善に真摯に取り組んでまいります。さらに、協働学習は本校が力を入れている学習活動です。コロナ禍にあって、密を避ける学習形態が余儀なくされる中、生徒とともに、情報端末（タブレットPC）を活用した学びのあり方を探ってきました。タブレットを介して仲間と関わり協働して学ぶという“新しい学び”の手応えを感じているところです。個に応じた「わかった、できた」という達成感を高められるよう、今後も“ICTを活用した個別最適な学びづくり”に力を入れてまいります。

項目9（家庭学習）について

特に、教員の評価がCと厳しい項目でした。家庭学習は、基礎基本の定着に欠かせません。自分に必要な学習内容を見つけ補強をすることをねらい、家庭学習習慣化の呼びかけと手立てを講じておりますが、家庭学習の内容（質）や掛けている時間（量）には個人差があります。今後も、生徒個々に応じた“家庭学習の質と量”について、個別に、指導を継続的にしてまいります。

項目10（読書習慣）について

生徒・保護者の評価が昨年度のDからCへと嬉しい変化が見られますが、教員の評価がDと最も低く、また、保護者の評価も依然として低い項目です。校内の各階への踊り場には「ミニ図書館」を設置して、時季に応じて“旬”な本を展示しています。図書館には、“話題”の本を紹介するコーナーも常設しています。気になった本を気軽に手に取り読書の楽しさを味わってほしいという“仕掛け”の一つです。始業前には、生徒による「読み聞かせ」や、新聞コラムを題材にした「コラム学習」も定期的に行っています。学校での一つ一つの地道な取り組みが家庭での読書習慣に繋がるように、これからも“仕掛け”を工夫し継続して行っていきます。各家庭での呼びかけや取り組みもどうぞお願いします。

重点III 鍛え合う生徒（不屈の心） → 基本的な生活習慣の見直しを

		A	B	C	D	総合	R2	A+B	
		生徒	39.8	43.0	14.8	2.3	B	B	83
	教員	5.9	76.5	17.6	0	B		82	
	保護者	29.0	35.1	31.3	4.6	B	C	64	
		A	B	C	D				
11	生徒達は、自分自身の生活を振り返りながら、自分の良さを理解したり、自ら進んで自分の進路を考えたりすることができたと思いますか。	生徒	51.6	37.5	10.2	0.8	A	A	89
		教員	17.6	70.6	11.8	0	B		88
		保護者	41.2	43.5	11.5	3.8	B	B	85
			A	B	C	D			
12	生徒達は、学級や部活動など集団での活動において、切磋琢磨して互いに力を伸ばしたり、仲間の良さを見つけ、共に成長することができたと思いますか。	生徒	38.3	54.7	6.3	0.8	B	A	93
		教員	11.8	88.2	0	0	B		100
		保護者	29.0	51.9	14.5	4.6	B	B	81
			A	B	C	D			
13	生徒達は、生徒会活動等自分自身の力で学校生活の向上をめざすことを通して、当たり前前を当たり前前にできるようになったと思いますか。	生徒	60.9	33.6	4.7	0.8	A	A	95
		教員	17.6	82.4	0	0	B		100
		保護者	42.7	50.4	6.1	0.8	B	B	93
			A	B	C	D			
14	生徒達は、安心・安全な生活を送るよう、十分に注意して学校生活を送ることができたと思いますか。	生徒	27.3	53.1	14.1	5.5	B	C	80
		教員	5.9	58.8	23.5	11.8	C	C	65
		保護者	16.0	30.5	42.7	10.7	D	C	47
			A	B	C	D			
15	生徒達は、心身の健やかな成長を図るために、早寝早起きやメディア使用制限などに取り組むことができたと思いますか。	生徒	38.3	54.7	6.3	0.8	B	A	93
		教員	11.8	88.2	0	0	B		100
		保護者	29.0	51.9	14.5	4.6	B	B	81
			A	B	C	D			

項目11（自己肯定感・進路への意識）について

保護者の評価が昨年度のCからBへと変化が見られました。しかし、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「あまりそう思わない」に、評価がほぼ均等に分かれています。

「自分にはよいところがある」と肯定的に捉えたり、自分の特性を理解し進路を前向きに考えたりすることは、学年や環境など、生徒個々によって差があるようです。学校では、各学年・学級で、仲間からの「感謝のメッセージ」を送り合うなどの活動を通して、気づかなかった自分のよさに目を向けられるような機会を定期的に設けています。また、毎月1日を「いのち輝く安全の日」に設定し、今年度より新たに、学年担任団からの「いのちの講話」も実施しています。さらに、全学年を対象に、外部講師をお招きして「いのちの講話～特別授業～」を行い、かけがえのないいのちの大切さを実感し、自分も仲間も同じように大切にできる心を育んでいこうと継続的に取り組んでいます。その取り組みが生徒一人ひとりの自己肯定感を高めることに繋がっていると感じています。自分のよさや個性を将来に繋げるために、職業調べや「進路コンパス」を使った適性調べや、高校選択に向けての進路学習にも計画的に取り組んでいます。これからも、そういった学校の取り組みや生徒の活動の様子を学校だよりや学年・学級だより、ホームページなどを通して保護者の方々に随時お知らせしてまいりますので、親子で夢や進路について語り合う機会にしてください、お子さんの成長の様子を感じ取っていただけましたら幸いです。

項目12・13・14（切磋琢磨・学校生活の向上・安心安全な学校環境）について

生徒、保護者ともに高評価だったのが項目12と項目14でした。今年度もコロナ禍の制約がある中、生徒達は、正々堂々と競い合った運動会でも、数々のドラマをくり広げた合唱コンクールでも、“できることを精一杯工夫”しながら、励まし合って仲間と“絆”を深め、成長した姿を見せてくれたことが印象的でした。特に合唱コンクールでは、学年を追うごとに、“凄みを増した”表現力とハーモニーの美しさに心が揺さぶられました。

“合唱づくりは学級づくり”を体現できた行事となりました。残念ながら、いずれの行事も保護者の皆さんに見ていただくことはできませんでしたが、来年こそ、生徒の成長ぶりをじかに見ていただきたいと願っています。地区の方々から指摘をいただいている登下校の際の並列歩行など、生徒の交通安全についても継続的に呼びかけてまいります。

項目15（心身の健康・生活習慣の向上）について

生徒の生活リズムアンケートを見ると、深夜のゲームやSNS使用に多くの時間を費やし体調を崩す生徒が見られます。加えて、半数以上の保護者がマイナス評価であることからその深刻さが伺えます。生徒会でも、「メディアコントロール」を重点の一つに掲げ特にテスト前にキャンペーン活動を行うなど呼びかけに力を入れています。「ネットモラルの重要性とネットに潜む危険」について、専門家をお呼びして講話を実施するなど注意喚起を行っていますが、誘惑をうまくコントロールできない生徒が少なくない現状です。ネット依存やネットを介したトラブルは不登校やいじめに繋がる大きな要因であり、私たち大人も一緒に、本気になって対応しなければならない問題です。今後とも、学校と家庭の連携のもと、各ご家庭でのご指導をよろしくお願いいたします。

要望や意見等のコメントについて

生徒一人ひとりへの対応やタブレットを積極的に活用していること、修学旅行が実施できたことなど、コロナ禍での取り組みにご理解と励ましの声をいただき嬉しい限りです。

「コロナが収束し学校行事に参加したい」という切なる声も多くいただきました。一方で
1) 地域との関わりやボランティア、部活動を主体的に活発に、2) 悪口や陰口を無くす、とのご要望もいただきました。大切な声として、真摯に改善に生かしてまいります。